

高退協 ニュース

高退協事務局

1982. 10.

No. 15

- ・高知市長選決戦迫る
- ・香川につづく勝利を
- ・豊かな老後をつくる高知県集會報告
- ・前田博之君を悼む
- ・誰れにはばかることなく

高知市長選決戦迫る!!

高退協後援会事務局長

門田 豊

高知市長選決戦迫る!!

高知市長選決戦迫る!!

高知市長選決戦迫る!!

社会・共産・総評の推す現職、

横山龍雄氏が、昭和二十六年以来、

三十二年間続いた長期革新市政の

牙城を守り切った。自民・公明・民社三党推薦という県下初の陣形

で挑む前出納長・大町行治氏が保守陣営の宿願の県都筆選を

もたらすか……。

いま状況は、正にきつ抗状態にあり、

これからの迫り込み如何にかかっている。

吾々「横山たつお・県高退協後援会」も、事務局を高教組書記局に設置し、

高教組と一体となり、懸命の努力を続けている。

高退協の皆さん!! この歴史的な選挙を勝利に導くため、さらに一段の奮起をし、行動を起し、全県的な民主勢力をいま高知市に結集させて共に闘い抜きましょう!!

九月二十九日 記

香川につづく勝利を

高教組委員長

坪井 幹之

高退協のみなさん、お元気でですか。

政府・自民党は、去る九月二十日入勅の全面凍結を決定しました。この凍結をゆるせば、三六〇〇万人の暮らしに重大な影響があるとされています。恩給・年金の引上げもストップ必至です。

高教組は、夏休みあけから「軍事費を『凍結』し、入勅を完全実施せよ!」「戦争に協力する完全戦統一反対、臨調粉砕!」をスローガンに秋のたたかいは開始しましたが、まずは、十月三十一日の高知市長選にどうしても勝利しなければなりません。七万票差をつけて勝利した香川県知事選につづけて、高教組は一人の後援会員獲得を目標に頑張っています。

国際的な反核運動にみられるように、世界と日本の流れは変わりつつあります。軍拡と大企業奉仕の

自民党の愚政に国民の怒りは大きく高まっています。いまこそ、草の根の力を集めて、横山再選をからとりましょう。高退協のみなさんのご健闘を心から祈ります。

秋晴れを
この手につかまん
豊珠沙華

豊かな老後をつくる 高知県集會報告

高知県退教協副会長

平野日出男

去る九月十日、県民文化会館グリーンホールで、県総評・地方同盟傘下の退職者による「豊かな老後をつくる集會」が開催されました。それには、県退協・高退協からも代表が参加しました。

会のあと、かし座のみなさんによる、おはやし・お禅堂、司平井梁さんの土佐落語、横山たつおさんのあいさつ等、多彩な催しもありました。

会では、社会・共産・公明・民社各党からのあいさつが形通り行なわれ、津野義宜さんから臨調答申における年金や医療をめぐる動きを中心とした基調報告が行なわれました。

特に年金制度の一元化や老人医療の問題については、労働者全体が一丸となって運動を進めねばならないことが強調されました。会で確認された緊急重点要求は次の通りです。

- ・恩給、年金について
厚生年金・国民年金の物価スライドを完全に実施すること。各種年金改定時期を四月にする。
- ・医療について
薬づけ、検査づけの医療の改善。保険外負担の解消。市町村に於ける保健事業の充実。老人医療に優遇措置をとって、いる地方自治体への援助。保健事業に住民の声が反映できるようにすること。退職者医療制度の確立。国民健康保険の統一と引き下げ。
- ・高令者雇用の拡大について
市町村に高令者事業団の設立をすること。高令者雇率率の達成を各企業に義務づけること。国や自治体で、高令者雇用を拡大する事業発達にとりくむこと。おわりに、福祉切り捨て、軍備増強の政策に歯止めをかける為、一層団結を強め、行動に立ちあが

前田博之君を悼む

横田豊秋

九月七日、前田博之君が逝った。八月見舞にいつ九時随分と憔悴していたし、既経痛だとわかっていたので今年中はどうかなと思っただが、こんなに早く訃報に接するとは想像もしなかった。随分と元氣な彼だっただけに、余計に人生の果なさを感ぜないわけにはゆかない。

彼と私は、昭和十一年師範学校に同時入学した。全寮制で偶然にも彼と一年生のときは同室だった。又同じ陸上部に籍をおいた。彼は投擲競技専門で、私は跳躍競技だった。クラブ活動を余技ぐらいにしか考えてなかった私は反対に、随分と練習熱心で、寮に帰ってもエキスパンダなど引っぱたりしていた。二年の時から彼がキャプテンをした五年生まで、連続優勝した。

五年間同じ道を歩んだが個人的には特に親しくなかった。終戦で復員し又教職についたが、同級生の段とんどは小・中学校の教師だったが、体育教師として高等学校に奉職したのは私達二人だけだった。昭和二十五年から二年間高岡高校で一緒にやったが、何事も積極的な彼を、どちらかというとなべて消極的だった私はいつも彼を羨しい気持ちで眺めていた。

同級生の中でも教組華やかな頃は随分と活躍した人もいたが、定年退職時に組合に属していたのは私達二人だけだった。然し私の場合は最後まで組合のお荷物だった。彼は非常に熱心だったと聞いている。

このたひ高退協より前田君の追悼文の依頼をうけた。なるほど二人の経歴をみれば私が最悪任のようになり思うだろうが、性格の相違が余りにも彼のことについて知らないうちに多くわねながらあきれてくる。ただ総じて積極的・行動的で自信家だった反面、小心で情に多いろく純情な一面を知らない人が多いのを残念に思う。

定年後は長年の高知市の生活から春野町に帰り、奥さんと二人で百姓をし第二の人生を踏みだそうとした時、すでに病魔に侵されていた。二度の手術のいかにもく闘病生活一年余で不帰の人となった。

誰れにはばかることなく

丸の内高校事務長

山崎孝夫

自分の病気を病と知り死期の近いのをさとりながら然も奥さんと中学一年生の息子を養ってゆかねばならなかった彼の心境を思うとき、只々彼が傷ましくてならぬらしい、運命の苛酷さを恨まずにはいられない。人に弱身を見せたことのない彼の病床での寂しさを眼差を今も忘れることができない。

今となっては御冥福と残された家族のこれからの幸を祈るだけである。

六十二才で鬼籍の人となったと云え厚さんにも晩年はある。小津高校を最後に三十数年の勤務を終えた彼、退職後、高知県心身障害者雇用促進協会にあって地方コンサルタントの肩書きで「孝ちゃんよ」と云って私を訪ねてくれたのは退職してそれ程日が経ってなかったような気がする。元気で顔色も良く元氣そのもの、勿論お酒の匂いもなし。一頭張りゆりのうの一言は同病の私達には相通ずる言葉だった。……。

東に「山澤あり」の言葉の通り私達の会にあって始終一貫した論戦を張り己の信するまに一歩も退くことしなかった彼、その論旨は忘れられることはない。背は高からずも豊かな肩巾は剣の迫で鍛えられ山澤の風格を備えていた。

その彼でも病には勝てなかった。斗病に入つての終盤自宅に帰えり療養に入つた彼を見た時、入院生活当時とは全く違つて、病をうけた顔色も薄く往年の山澤をそこに見たりの感で、思わず「若い時膝を鍛えらうと違つたのう」と云ったことだったのに、お昼に入院して夕方には逝く……と云った急なことだったよりである。その顔は実にきれいだ。生前お互に目と鼻の先きで杯をつき合した時でも見たことのないきれいな顔をして静かに静かにあった。

男らしく淳さんらしくきつぱりと浄土の人と化し、これからは誰れにはばかることなく……やって行くだろう。もう厚さんとよばれない。「豊徳院淳寛道照居士」である。七字の俗名の中にある「淳さん」を知る数多くの人達と共に彼の冥福と残された家族御一同様の御多幸を祈り心より合掌をいたします。